



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 19 No.4 2019年 1月

鷺の宮卓話

人間性のルネサンスに向けて

研究所長 太田敬雄

1995年1月の阪神・淡路大震災に始まり、2011年3月の東北地方太平洋沖地震を始め日本列島は北海道から九州まで幾多の災害に襲われました。そこで私達はボランティア活動の大事さを実感させられ、多くの方々が活動を開始しました。

ボランティア活動を広める中で、私たちが次に気付かされたことは、今後予想される災害に前もって備える事の大事さでした。そうして私たちは地域の人々の「絆」の大事さに目覚めていきました。外からのボランティアが入る前に、被災地域の人々の絆でお互いを助け合わなくてはならない事に思いが至るようになったわけです。

実はこの「絆」、日本社会は高度成長期の始まりと共に「不要な・面倒なもの」としてシステムティックに排除してきたのではないのでしょうか？留学生と話していると「日本は時間が正確だけど、私の国ではルーズだ」との声を時々聞きます。実際海外に出てみると私たちの間隔では「時間にルーズ」な場面に時々出会います。実は私たちは時間を優先して尊

重するために人のつながりである絆を不要なものとして排除して今日の日本を「育てた」のだと思います。人とのつながりを余計なものとして排除し、隣の人や地域の人との繋がりや昔からのしきたりを「煩わしい」とする考え方が「時は金なり」とする日本社会を作っていました。

イギリスの産業革命から始まった産業化・近代化が人々の生活水準を上げ、国々を豊かにして行きましたが、それは同時に人間らしい人々のつながりを排除してゆきました。ルネサンスは人間らしさを取り戻し、失われた文化を復興する活動として受け入れられていきました。

今日の日本が必要としているのは、新しい「文化の復興」としてのルネサンス、人間性の回復としてのルネサンス。それこそが「絆」の復活です。必要なら文化の形をも変える覚悟を持って「絆」作りをしたいものです。

国際比較文化研究所では文化の枠を超えての「友達作り」を目標に活動してきましたが、それこそが地球規模の「絆」作り。その絆がしっかりと根付いてこそ、必要とされるボランティアに果敢に取り組む人も育つのです。今、ここにその力が育ちつつあります。

【スーダーニーヤのおしゃれな休日】

荒井美里：多文化交流 OG

2010年の「多文化交流 in 釜山」に参加した荒井美里さんが、青年海外協力隊のメンバーとして昨年1月からエジプトの南の国スーダンで活躍しています。首都ハルツーム郊外のオムドゥルマンにある特別支援学校に派遣されて、中学生～高校生9名の指導をしています。

次ページの記事は荒井さんがフェイスブックに投稿されたものです。

写真は荒井さんと同僚の先生方



【スーダーニーヤのおしゃれな休日】

前書き

この1.3か月の間に、スーダンで何があったか？SNSに制限がかかりました。デモ等の抗議行動が現在もあちこちで計画され、継続されています。その一方で、今日も道端の木陰に座ってコーヒーや紅茶を片手に、ああでもないこうでもないって議論したり大笑いしたりする日常風景。停電しても、

「神がお望みならそのうち明かりはつくさ、まあ座っていきなさいよ」と文房具屋のおっちゃん。「日本はいいよなあ仕事がたくさんあるんだろう、日本の技術は最高だもんな一電化製品も自動車もすばらしい。いい国なんだろうなあ」

「でもね、おっちゃん。日本ではね、スーダンみたいにみんなで一緒にごはん食べる時間も家族や友だちがゆっくり遊びに来てくれる時間もなくて、ひとりぼっちでごはん食べて、ただただ寝て起きては仕事ばかりして、人生の大半を仕事に費やしてる人がたくさんいるよ。そんな生活したいと思う？」

「そうか、日本人には時間がないんだな。スーダンには時間がたっぷりあるぞ、毎日いっしょにごはん食べて、お喋りして、コーヒーや紅茶を飲むんだ。何か困ったことがあれば家族や友人誰かがすぐ助けに来てくれる。具合が悪くなったら必ずお見舞いに来てくれるんだ。お互い様だ。日本人はみんなばらばらに暮らしてるのか？それは問題だなあ」

暑くて、砂埃すごくて、物価高止まらなくて、銀行行ってもお金引き出せなくて、パン屋やガソリンスタンドの大行列でみんなイライラしてて、しばらく耐えに耐えてたけどついに声を上げて行動を始めて…そんな状況にスーダンがあるのは事実だけど、やっぱりスーダンは大変な国なんだっていうのを伝えたいわけじゃなくて（中略）、わたしはここでたくさんの人たちから懐の深い心と苦勞を笑いとばすユーモアを教えてもらい、そんな人たちのおかげでほかに代えることのできない時間を過ごさせてもらっているんだということを知らせてたくて、伝わるか分からないけど（略）伝わるといいなあと思って書いています。

さて、本題【スーダーニーヤのおしゃれな休日】

派遣国スーダン…「え、スーダンって行って大丈夫なの」（南スーダンとの混同？）国民の大半がムスリム…

「え、イスラム教って大丈夫なの」（特定の宗教に対する偏見や誤解？）公用語はアラビア語…「え、大変だね…右から読むの？っていうかどこからどこまでが1つの文字なの？？なんかミミズみたい…まっ頑張て！」（はい、頑張ります）

以上のように、わたしの任国は日本でのマイナスイメージに事欠かないスーダン。そんなスーダンですが、実際は穏やかで、人々は人懐っこく面倒見がよい、そして多様性（弱者や民族、宗教の違いなど）をまるごと受け入れる器の大きさがあるすてきな国だと思っています。たしかにアラビア語は難しく、いまだに全然分からない時がほとんどだけど…でもとても美しい言語だと思う。

今日は笑顔絶やさず、お喋りに花咲かせて、人助けや世話役を厭わず、身だしなみに気をつかい、たくましく人生を楽しんでるスーダン人女性（スーダーニーヤ）の日常について書きます。

①ウエディングパーティー

家族、親戚、友だち、同僚、知り合い、近所の人…とにかくたくさん人が出席する結婚式（500は少ない方らしい、2000人集まることも）。スーダーニーヤが気合いを入れて着飾る日。たっぷりのご馳走を味わった後は子どもから大人まで踊ったり音楽を奏でたり、朝も昼も夜も1日中お祝いです。一張羅でおめかししたスーダーニーヤの視線の先には主役の花嫁のきらびやかなドレス。わたしもいつか…と夢みているのでしょうか。

②ショッピングとカフェ巡り

ネックレス、ブレスレット、ピアス…スーダーニーヤは大好き。ハンドメイドアクセサリーの材料を探しにスークへ。やっぱりゴールド系がいいかしら？お部屋のインテリア用に花モチーフのレースも。買い物に疲れたら道端のカフェ（シッタ シャーイ）で砂糖たっぷりの紅茶やコーヒーを飲み、揚げたてのレゲエマートを頬張ります。スイーツは別腹。

③お散歩

たまには足をのばして、遠出。ナイル川からの涼しい風を浴びながら、夕陽に照らされてきらきら輝く川面を眺めて…結婚前の男女が表立って一緒にいることができないスーダンですが、心の中ではどうでしょう。気になるあの人にナイル川沿いエスコートしてもらえたらどんなにすてきだろうって思ってるかも。

以上、スーダーニーヤの休日、ちょこっとだけ紹介させていただきました。おしゃれに買い物にスイーツに恋愛に…女の子たちの興味関心は日本だろうがスーダンだろうがなんら変わることはなく、汗で化粧崩れて砂埃で服も靴も茶色く汚れてしまうスーダンだけど、そんなことにはめげず人生エンジョイしながら太陽のように（アラブ式の言い方では月のように）周りを明るく照らすスーダーニーヤがいるんだってこと知ってもらえたらうれしいです。

【荒井さんはスーダンの子ども達とメッセージカードや写真やイラストを加えた手紙の交換をしてくれる人を探しています。ご協力いただける方はIIMSの太田までご連絡下さい。】

多文化交流同窓生の活躍

荒井美里さんのスーダーニーヤの記述は、当研究所が目指すところを見事に記してくれているので、少々長かったのですがスペースを割いて掲載させて頂きました。

学生時代に多文化交流を経験した大勢の若者が世界とのつながりの中で平和な世界を念頭に置いた活躍をしてくれています。

台湾やマランでの初期の多文化交流に何度も参加してくれた佐京紗也加さんは現在日本語パートナーズの10期としてインドネシアは西スマトラ州のパダン市の高校で日本語を教えています。

写真はマランに旅して旧友との再会



他にも多文化交流経験者達が色々な場面で世界平和を視野に活動しています。

例を挙げますと：

ぐんまカップ等で活躍した菅谷佳名子さん、後藤翠さん、矢野美帆さんはそれぞれアジアの国々と深く係わりを持って働いています。

岸綾夏さん、脇優美さん、齋藤恒平君は研修生の支援を仕事として頑張っています。

その他の研究所の活動

秋のオムニバス講座：

6月から7月にかけて実施しました「ワンコインセミナー」では所長、太田敬雄が毎回お話をさせて頂きましたが、これをベースに10月から11月にかけて6回の講演会を開催しました。（敬称略）

第1回 土取ひろみ「梅農家を継いでみました」

第2回 宇佐美若奈「ヨガ」

第3回 渋谷和代「幸せになるためのホルモン分泌」

第4回 鬼形聡子「ダウン症のある子どもの母になって」

第5回 山崎利夫「手作りの窯で焼いたピザ」

第5回 高松祥子「アナウンス」

それぞれに楽しく、しかもためになる時間を過ごすことが出来ました。これからも年に2回程度このような講座を続けて行きたいと思えます。

これからの活動：

2月9日～11日 多文化交流 in ぐんま このニューズレターが発行される頃には学習の森で熱い交流が展開されているはずです。

2月19日～28日 多文化交流 in マラン 今回は14名の参加者がマランに向かい、学生達との交流やホームステイ、大学訪問・小中学校訪問など体験してきます。

5～6月頃にはオムニバス講座実施予定

6月には IIMS 総会が予定されています。

8月1日～8日（予定）家族多文化交流 in マラン 昨年の親子多文化交流の名称を変更しました。

9月始め親子多文化交流 in 安中 マランの小中学生を招いての交流プログラムです。

「ワンコイン寄付」

☆ 前号にも記しましたように、クレジットカードにて毎月500円の寄付(自動引き落とし)も選択可能になりました。「一度にまとまった額の振込みは大変だけど、月500円なら…」そんな気持ちでご検討いただけたら嬉しいです！（自動引き落としは、いつでも停止可能です。）

☆ 勿論。会費や一般のご寄付もカード振込が可能です。ぜひご利用ください。

カードを利用してのご入会の場合はお手数ですが、別にメールで

(totatakao.iims@gmail.com) 宛にお名前とご住所をお知らせください。

会費のお支払い・ご寄付は「クレジットカード」または「郵便振替」にて受け付けております。

【クレジットカード決済の手続きはコチラ】



左記 QR コード、もしくは下記 URL からアクセスして頂き手続き・ご登録ください。

アクセス先のページから「会費の支払い」と「ご寄付」に分かれておりますので、それぞれのページへ進んで頂き、手続きをお願い致します。

(<http://www8.wind.ne.jp/mthc/iims-cardannai>)

【郵便振替はコチラ】

下記口座まで直接お振込み下さい。

●加入者名：国際比較文化研究所

●口座番号：(普通) 00510-0-61974

※ゆうちょ銀行から振込可能な口座です。

※通信欄に「会費」または「寄付」とご記入ください。